

日吉台新聞

HIYOSHIDAI

発行

日吉台新聞
まちづくり雑誌

発行責任者
林 堅太郎

編集責任者
野々口 義信

日吉台学区
個人情報保護方針
取り扱い文書

巨大地震に備え学区防災訓練



訓練でダンボールベッドの組み立てを行う参加者ら

自助、共助の決意あらた

ダンボールベッドづくりで汗

巨大地震に備え、日吉台学区自主防災会（高村克彦会長）は11月10日、日吉台小学校で、学区住民約320人が参加して学区防災訓練を行った。日吉台住宅地が巨大地震に襲われ、家屋の倒壊や火災が発生、負傷者が多数出ているという想定。自分の身は自分で守る自助、自分たちの地域は、自分たちで守る共助という自主防災意識に立って災害時における住民の安否確認と安全な場所への避難誘導を図るのを狙いに実施した。

午前7時45分地震発生。各丁で家族や近隣住民の安否確認や初期消火など独自の訓練を開始。8丁住民らは、各丁が指定した公園など安全な場所へ避難、地域の防災担当者が安否確認後、トランシーバーで本部に報告したあと、住民らを学区自主防災訓練会場の日吉台小へ誘導した。

加者らが体育館に集合。高村克彦・自主防災会長の「最近、気象台などの防災情報の精度があがっている。全国的にこれまで避難情報など指示が出されていても対応しない地域や住民があった。今後は地域住民の情報を密に命を守る行動を迅速に行っていたらいい」と訴え、開会のあいさつをした。



パネルディスカッションが行われる集会会場

各丁ごと3班に分かれ避難所で使用するダンボールベッド、間仕切り、災害用簡易トイレの組み立て訓練、AEDを使った救命救急訓練、倒壊家屋救助訓練に参加した。

大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会、人権を守る大津市民の会など主催の第51回人権を考える大津市民のつどい日吉ブロック秋の集会在11月16日、大津市坂本の坂本小学校で開かれた。

日吉ブロック秋の集会開催

第51回人権を考える大津市民のつどい

同連合会日吉ブロックは、坂本、下阪本、日吉台、雄琴4学区の人権協会で構成、秋の集会は4学区が輪番制で実施、今年度は坂本が当番学区にあたり坂本小学校が会場となり実施された。

集会には、日吉台はじめ坂本、下阪本、雄琴学区の人権協会員や住民約200人が参加。「住みよいまちづくりをめざして」をテーマにパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッ

シオンでは田川学・日吉中学校長をコーディネーター、山本喜則・複合高齢者ケア施設レイクヒル琴 施設長代理、江藤ブラウン多恵さん、濱崎博・日吉台小コミュニティスクールの協議会長、吉川暁子・坂本幼稚園保育主任の4氏をパネリストに進められ、それぞれの活動事例報告を交え「住みよいまちとは」などについて討論した。

この秋の集会は、これまで4学区の住民、構成員がそれぞれ分科会に分かれて討論していたが、今回、体育館に4学区の住民が集うパネルディスカッションを行い、全体で意見交換、議論を行う機会を設けた。コーディネーターの田川・日吉中学校長は、パネリストだけでなく会場的一般参加者にも意見、提言を求め議論を盛り上げていた。

レベル4はすぐ避難

これまで巨大地震、風水害などの災害発生に備え発表される防災情報は気象庁から「注意報」、「警報」市町村からは「避難勧告」や「避難指示」などが出されていた。これら注意報、警報、避難指示や勧告はどのタイミングでどのように行動すればいいのか住民に分

かりにくいこともあり、今年9月から5段階の数字を用いた「警戒レベル」による防災情報の伝え方に変更となった。

この警戒レベルは、数字が高くなると危険度が高くなっている。「レベル1」は、テレビ、ラジオ、ネットなどで防災情報をチェックし、災害へ

の心構えを高めておく▽「レベル2」は、ハザードマップなどで危険箇所などをチェック、避難場所や避難ルートなどを安全に確認する▽「レベル3」は高齢者、小さな子供、障がいのある人、災害の起こりやすい場所に住む人は避難、その他の人は避難準備に備える▽

「レベル4」は、すぐに避難、移動が危ないと思う場合は、近くの安全な場所や建物の安全な部屋に避難する▽「レベル5」は、すでに災害が発生している状況。命を守る最善の行動をとる必要がある事態となっており、各自自治体、防災関係機関では、警戒レベルが発表された場合、「空振り」を恐れずレベル3、レベル4の段階で避難してほしい」と呼び掛けている。

市役所別館1階大会議室で大津市が11月15日夜開いた「立地適正化計画基礎調査結果報告会」で、日吉台学区の濱崎博・空き家対策委員会事務局長が「学区における空き家対策の取り組みについて」と題し事例報告を行った。

同市は、誰もが安全、安心、快適に住み続けられるコンパクトシティづくりをめざし、市都市計画マスタープランに基づき立地適正化計画の策定に取り組んでいる。30

空き家対策取り組みを報告

ESOPパブリックミーティング



年後の市のまちな姿を見据えて策定するこの計画。報告会には、計画策定にたずさわっている学区住民代表者や関係者ら約60人が出席、市側がこれまでに分析を行った人口動向や土地利用動向などの基礎的データの報告、説明を行ったほか、市都市計画審議長の宗田好史・京都府立大副学長による「どんなまちなら住み続けたいか」の講演、地域課題に取り組む日吉台学区空き家対策委員会、晴嵐台交通協議会の事例報

告が行われた。日吉台学区の空き家対策の取り組みについて濱崎事務局長は、会場正面に映し出されるプロジェクトターを使い、「日吉台は高齢化に加え人口減に見舞われついに幼稚園もなくなつた。空き家対策をまちづくりと捉え、対策に取り組んでいる」と現状と対策に取り組んだ経緯を説明、「空き家持ち主と私たち住民との信頼関係を構築、行政に頼らない自力で、若い人に魅力ある日吉台のまちをめざしている」と報告した。

子ども食堂に代わり



大好きなカレーにあ代わり

日吉台学区社会福祉協議会(呉屋之保会長)が催す「子ども食堂」が11月16日、日吉台市民センターで開店した。子ども食堂は今年5回目。メニューは、子どもたちが大好きなカレー。中辛、甘口、アレルギーを持つ子ども食べられるカレーも用意され3種。今回は大人51人、子ども29人が食堂を訪れ、お代わりをする子どもたちもみられた。また、この日の食堂には、堀場製作所から「サツマイモ」の差し入れがあり大学芋として提供された。

骨密度を測定

野菜マルシェ会場

健康友の会

旧滋賀銀行日吉台出張所前で11月9日行われた学区まちづくり協議会の野菜マルシェで「しが健康友の会」の健康エッセが行われた。友の会の役員と看護師2人が血圧測定と健康相談、骨密度測定を実施した。

(きびす)に超音波を当てて検査。女性17人、男性1人の計18人が受診した。検診を実施した友の会では、骨密度測定について「受診した人は、みなさんお元気で年相応の数値。問題は、あまり外出せず、家に居る人たち。機会を求めて積極的に

健康診断を受診してほしい」と話している。また、野菜マルシェ会場では、学区住民が近郊の農地で育てた季節の野菜が並べられ、開店と同時に訪れた住民が先をあらそうように買い求めている。



野菜マルシェ会場で行われる骨密度測定

日吉台新春の風物詩開催

日吉台青少年育成学区民会議、日吉台夢・未来事業推進委員会は1月11、12の両日、日吉台小で、日吉台の恒例、新春風物詩「もちつき大会」と「どんと焼きまつり」を開催する。

もちつき大会は、11日午前10時、小学校体育館中庭で開催。餅米約30キロを子どもたちを含めみんなでお餅をつき、ぜんざいやダイコンおろし、きな粉餅にしてつきたてお餅を食べてもらう。どんと焼きは、12日午前10時(雨天の場合は、13日に

もちつき(1月11日)、どんと(同12日)

順延)、グラウンドで行なわれる。どんと焼きに使うしめ縄や正月飾りを各家庭に持参してもらい、残り火で餅などを焼いてもらう。また、当日の参加者には豚汁もふるまわれる。

伝統行事の良さを日吉台の子どもたちに伝えるため日吉台夢・未来事業推進委員会が、平成19年から始め、日吉台の新春の風物詩として定着している。

問い合わせは、同事業推進事務局の山本由美さん(090・4279・8798)

日吉台新聞

ラジオ番組で放送

「FMおおつ」インタビュー

昨年4月大津市をエリアに開局したコミュニティFMラジオ局「FMおおつ」

「が、日吉台学区で発行している「日吉台新聞」を番組で取り上げることになり、11月22日、日吉台市民センターで、野々口義信・日吉台新聞編集長がインタビュー取材を受けた。「FMおおつ」は、昨年4月大津市内を放送エリアに開局したコミュニティFMラジオ局で、周波数は79.1メガヘルツ。同局には「おおつへ行きたい」という番組があり、パーソナリティーの永縄潤さんが、大津旅行者となり、市内を隅々まで回り施設や話題のお店を紹介、大津の魅力を発信しており、来年初刊5年目に入る日吉台新聞

を取りあげることになった。インタビューは、市民センターに永縄さんが訪

問、日吉台新聞発行の経緯や苦労話、日吉台学区のまちの魅力、まちづくりの取り組みなどについて、野々口編集長にインタビューした。



日吉台市民センターで行われるFMおおつのインタビュー

今年もクリスマスコンサート

12月7日、日吉台合唱団



日吉台合唱団恒例の日吉台合唱団クリスマスコンサートが12月7日、日吉台市民センター大会議室で開かれる。コンサートは、午後1

玄関灯・門灯 点灯にご協力ください!

- ・ 帰宅時も明るくて安心
- ・ 泥棒に狙われにくい街づくり



電気代は、LED電球(40W電球相当)の場合1か月60円程度、20W蛍光灯の場合1か月140円程度です。



「お祭りマンボ」「世界にひとつだけの花」など心に残るなつかしい歌を演奏する。今回、従来の「いしづみ」の駐車場は使われないことになった。